



自主防災組織による避難の 呼びかけ体制づくりについて

広島県危機管理監消防保安課 自主防災組織支援G



平成30年7月豪雨災害

死者・行方不明者100名超 過去50年で最大の人的被害

<人的被害>

死亡	108
行方不明	6
合計	114



（写真提供）三原市

<避難状況>

避難所開設数	66 (702)
避難者数	1,027 (17,379)

※（ ）は7月7日6時時点

<その他の被害状況>

住宅被害	14,109戸
土砂災害	484箇所（20市町）
浸水被害	破堤12河川 越水82河川

県全域にまたがるライフラインの被害

区分	最大時	7月31日 13時現在
停電	約4万7千戸 (7月7日 8時時点)	解消 (7月13日)
断水	約22万戸 (各市町ピーク時)	約4千戸

<断水した市町>



✓ 給水所に並ぶ住民の方々



（写真提供）江田島市



✓ 泥水をトイレ排水に使用

孤立状態となった地区

3万2千人超（9市町）が孤立状態に
（7月10日 17時時点）



安芸郡坂町小屋浦

道路・鉄道への被害による大動脈の寸断

線路敷が流失し寸断される鉄道



J R山陽本線（河内～本郷駅間）

（写真提供）JR西日本

各地の通行止めで大渋滞



広島熊野道路

店頭から消えた商品



広島市内のスーパー

県内企業の操業不能続出

一部操業	64社
操業不能	82社（うち40社が 復旧見通し立たず）

（7月31日 16:00時点 広島県調査）

マツダ…通勤・物流の影響により操業停止
7/12から体制を縮小して再開
7/23から生産量を抑えて昼夜の交代制で再開
セブンイレブン…弁当・惣菜の生産現場が一時操業不能
一時従業員の通勤困難により生産を4割に縮小

自主防災組織による呼びかけ避難体制とは・・・

平成30年7月豪雨災害の被害や、近年の災害における避難の実態を踏まえ、
「災害死ゼロ」を目指す広島県が、市町や自主防災組織の皆さんと、地域ごとに作りあげていく、
風水害を想定した地域の行動計画。

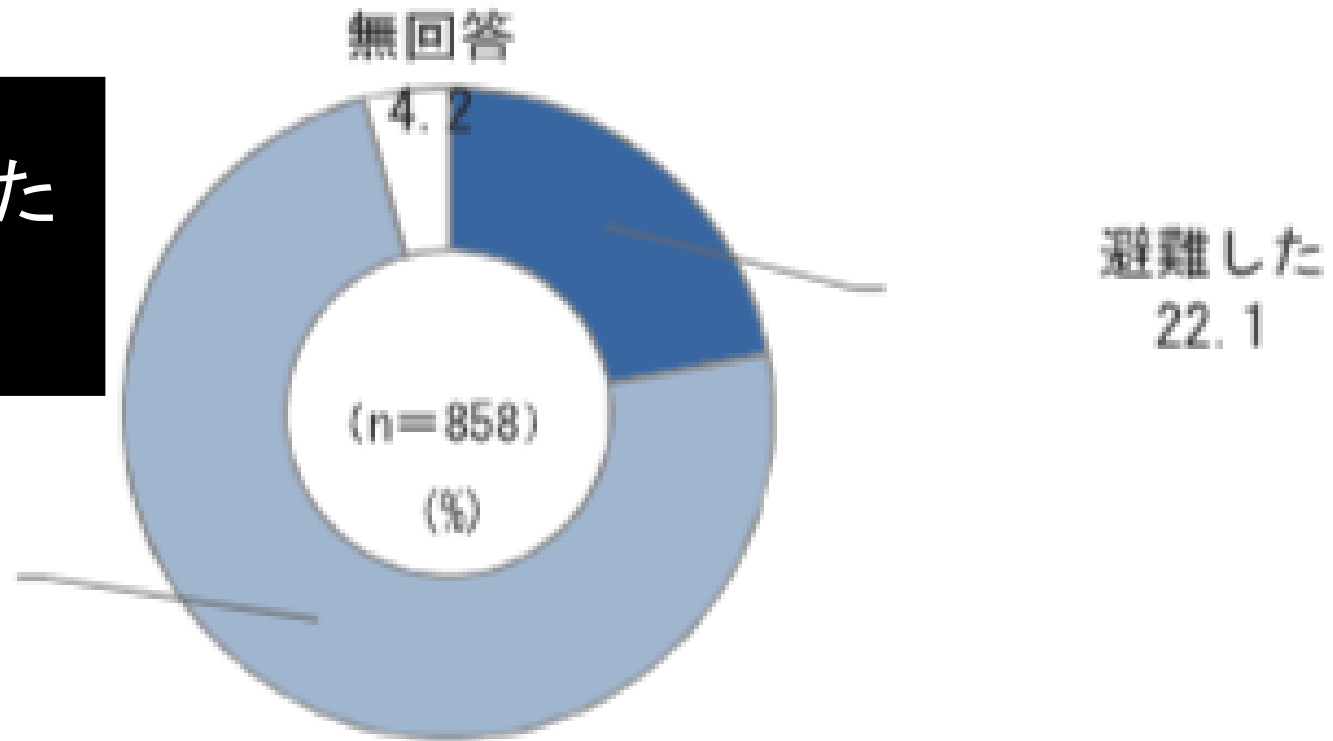
住民に早めの避難を促すため、呼びかけを開始するタイミングや呼びかけ方法などのルールを決めて、自主防災組織が大雨災害に対して効率的で効果的な呼びかけを行う仕組みです。

問17 あなたは、避難しましたか。

ここでいう「避難」とは、避難場所など自宅以外の安全な場所へ移動することのほか、自宅の上階などに移動した場合も含まれます。

避難しなかった
→73.7%

避難しなかった
73.7



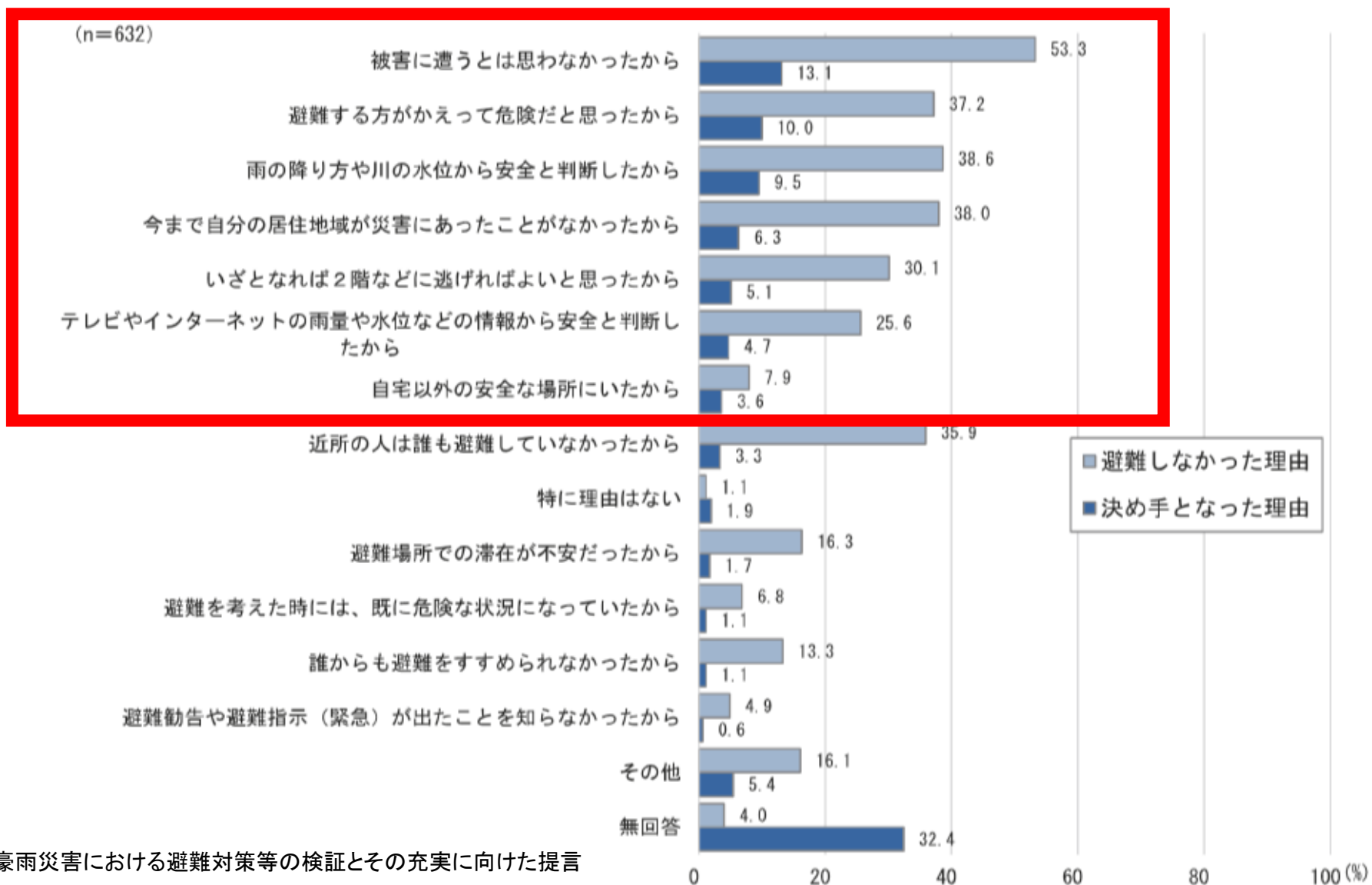
出典：平成30年7月豪雨災害における避難対策等の検証とその充実に向けた提言

多くの人は避難しない・・・

**この傾向は，近年の災害
（令和3年8月豪雨災害など）
でも変わらない。**

では、なぜ避難しないのか・・・

問 18 避難しなかった理由を、教えてください。
(避難しなかった理由：複数回答、決め手となった理由：単一回答)



問 18 避難しなかった理由を、教えてください。
(避難しなかった理由：複数回答、決め手となった理由：単一回答)

(n=632)

被害に遭うとは思わなかったから

被害に遭うとは思わなかったから⇒53.3%

今まで自分の居住地域が災害にあったことがなかったから

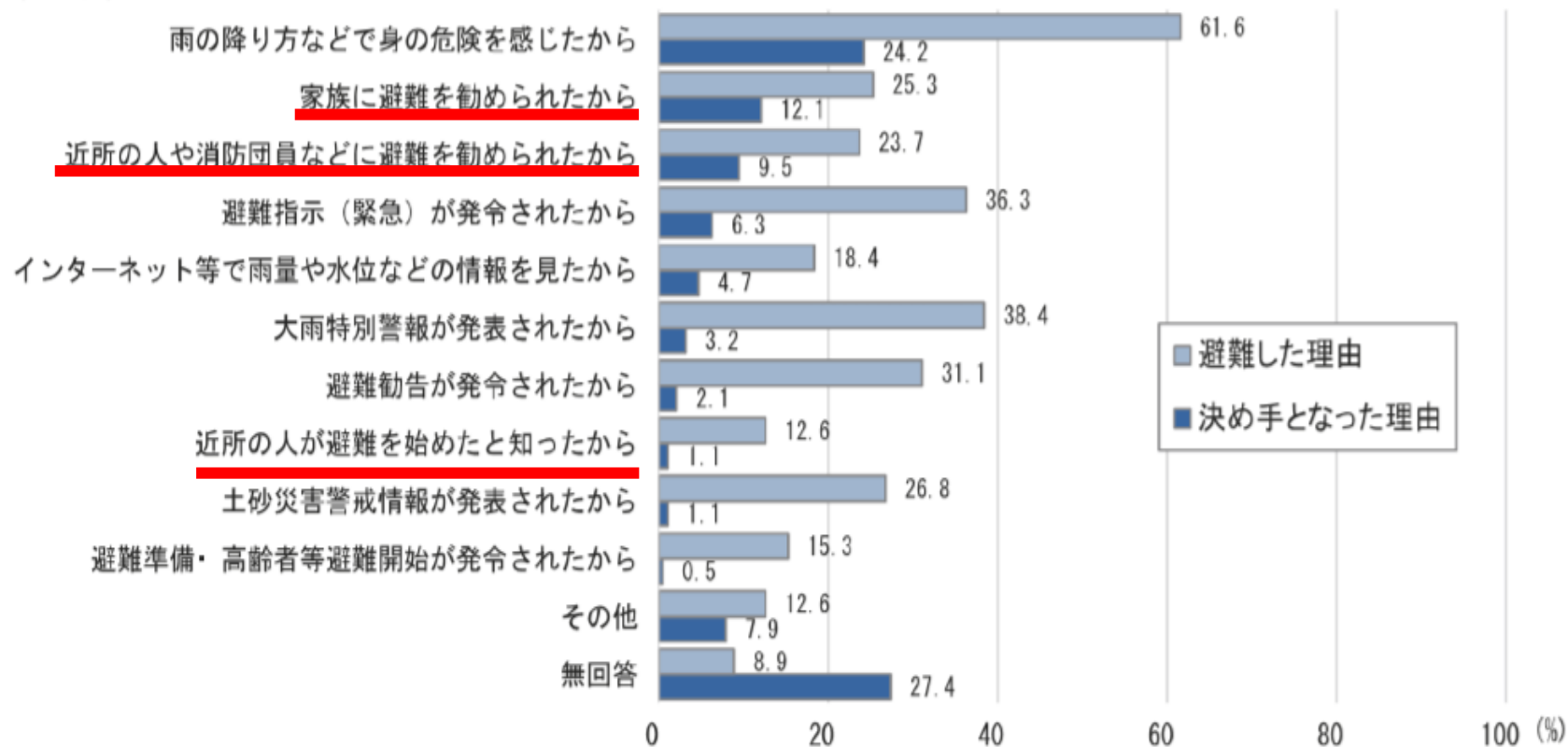
今まで自分の居住地域が災害にあったことがなかったから⇒37.2%

避難した人は・・

- ・危険を感じる
(避難情報や大雨特別警報など)
- ・家族、近所や地域の人・
友人などの「避難する」という
声かけ

問 19 あなたが避難した理由を、教えてください。
(避難した理由：複数回答、決め手となった理由：単一回答)

(n=190)



出典：平成30年7月豪雨災害における避難
対策等の検証とその充実に向けた提言

広島県が進める「避難の呼びかけ体制」づくり

自主防災組織による

避難の呼びかけ体制づくりマニュアル



避難の呼びかけ体制づくりに向けて

1. 避難の呼びかけ体制とは

「避難の呼びかけ体制」は、住民に早めの避難を促すため、呼びかけを開始するタイミングや呼びかけ方法などのルールを決めて、自主防災組織が大雨災害に対して効率的で効果的な呼びかけを行う仕組みです。

自身の組織にあった呼びかけ体制をつくるには、起こりうる災害や組織体系、地域の状況などを考慮して、ルールを決めていく必要があります。

2. 体制づくりのプロセス

呼びかけ体制づくりは、次に示す5つのステップを基本として進めていきます。

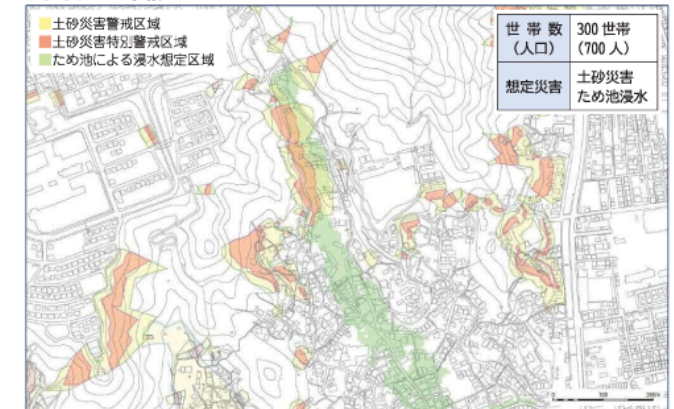


自主防災組織のこれまでの活動において、すでに実践している項目がある場合は、次のステップに進んでください。また、Step 2 と Step 3 を同日に行うなど、各ステップを組み合わせることも可能です。



町内会【尾道市】吉浦町内自主防災会

◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

避難情報の入手方法		尾道市安全・安心メール／テレビ
呼びかけ	順番	会長→副会長→副書記他→班長→班員
	担当者不在時の対応	次席の役員が順に対応
	タイミング	警戒レベル3
	範囲	全世帯
優先度	災害想定区域内およびその周辺の班員	夜間は班長まで伝達

出典【広島県「自主防災組織による避難の呼びかけ体制づくりマニュアル」を作成しました】

2.体制づくりのプロセス

呼びかけ体制づくりは、次に示す5つのステップを基本として進めていきます。

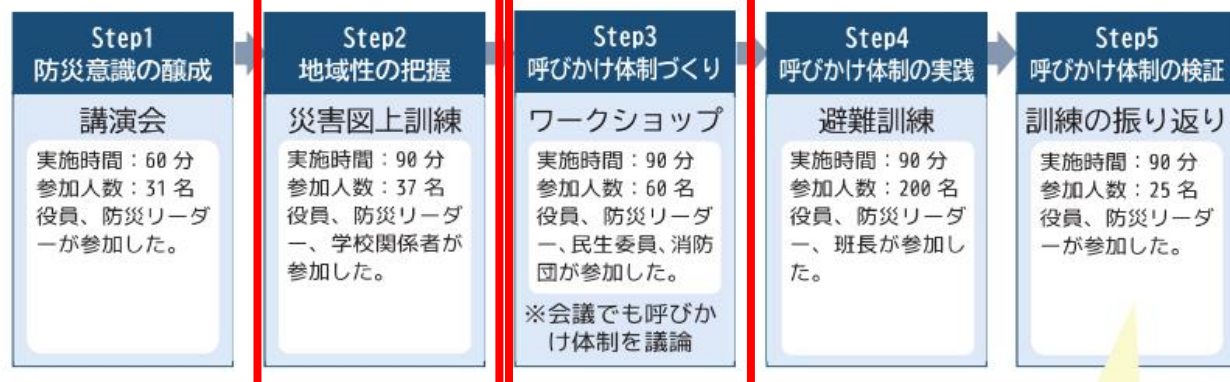


自主防災組織のこれまでの活動において、すでに実践している項目がある場合は、次のステップに進んでください。また、Step 2と Step 3を同日に行うなど、各ステップを組み合わせて実施することも可能です。



広島県では、
市町や自主防災組織からの
要望に応じ、
地域に出向いて、それぞれの
ステップに合わせた研修
会などを実施しています。

1) 実施した取組



【問い合わせ】

広島県危機管理監 消防保安課 自主防災組織支援グループ

【TEL】082-513-2790

【E-mail】kikihoan@pref.Hiroshima.lg.jp

地域特性の把握(災害図上訓練)の例

●災害図上訓練の進め方(詳細)

時間 (目安)	項目	実施内容	状況写真										
10分	準備	① 参加者を5～6名程度のグループに分けそれぞれリーダーを決めます。 ② 地図を机に広げテープで固定します。 透明シートを地図の上に重ねテープで固定します。											
15分	地形や建造物の書き込み	地形や建物の状況を、油性ペンで地図に書き込みます。 <table><tr><th>項目</th><th>色</th></tr><tr><td>川や水路</td><td>水</td></tr><tr><td>主要道路（国道や県道など）</td><td>茶</td></tr><tr><td>避難所や避難場所</td><td>緑</td></tr></table>	項目	色	川や水路	水	主要道路（国道や県道など）	茶	避難所や避難場所	緑			
項目	色												
川や水路	水												
主要道路（国道や県道など）	茶												
避難所や避難場所	緑												
20分	危険な場所等の書き込み	参加者で話し合い危険だと思う場所などに色丸シールを貼ります。 <table><tr><th>項目</th><th>色</th></tr><tr><td>危険な場所※</td><td>赤</td></tr><tr><td>安全な場所（広場・公園・オープンスペースなど）</td><td>緑</td></tr><tr><td>災害時に役立つ場所（公的機関・食品店・防災倉庫等）</td><td>青</td></tr></table> ※危険な理由を付箋に書いて地図に貼りましょう。	項目	色	危険な場所※	赤	安全な場所（広場・公園・オープンスペースなど）	緑	災害時に役立つ場所（公的機関・食品店・防災倉庫等）	青			
項目	色												
危険な場所※	赤												
安全な場所（広場・公園・オープンスペースなど）	緑												
災害時に役立つ場所（公的機関・食品店・防災倉庫等）	青												
20分	警戒区域等の書き込み	ハザードマップを参考に、次の範囲を油性ペンで書き込みます。 <table><tr><th>項目</th><th>色</th></tr><tr><td>土砂災害警戒区域・特別警戒区域</td><td>赤</td></tr><tr><td>過去に土砂災害が発生した地域</td><td></td></tr><tr><td>洪水浸水想定区域</td><td>青</td></tr><tr><td>過去に浸水した場所</td><td></td></tr></table>	項目	色	土砂災害警戒区域・特別警戒区域	赤	過去に土砂災害が発生した地域		洪水浸水想定区域	青	過去に浸水した場所		
項目	色												
土砂災害警戒区域・特別警戒区域	赤												
過去に土砂災害が発生した地域													
洪水浸水想定区域	青												
過去に浸水した場所													
25分	意見交換	地図を見ながら、地域に災害が発生した場合を考え、話し合います。 【テーマ例】 ・必要な避難行動 ・安全な避難経路 ・災害への強みや弱み											
30分	検討	災害への備えについて、参加者で検討します。 【テーマ例】 ・避難の呼びかけ体制 ・個人としての備え ・自主防災組織としての備え											

※書き込む項目や色はあくまで目安です。適宜追加をしてください。

◆モデル組織による実施例

組織名称	【安芸高田市】上根・向山地域振興会(組織単位:連合)
実施時間	13:00~15:00(120分)
参加者	41名(自主防災組織の役員、民生委員、消防団が参加)

訓練概要

参加者を6つのグループに分け、地域で災害発生が想定される箇所や避難所などの情報を地図に書き込み、地域の強み・弱みについて話し合いを行った。また、市から警戒レベルと避難所開設のタイミングについて説明を行った上で、呼びかけを開始するタイミングなど、「呼びかけ体制づくりの基本項目」についても、どのような対応を取るか話し合いを行った。

時刻	内容
13:00~13:05	参加者を6つのグループに分ける。
13:05~13:10	安芸高田市から警戒レベルと避難所開設のタイミングについて説明
13:10~14:10	グループごとに次の情報を地図に記入 ●土砂災害警戒区域・特別警戒区域 ●過去に災害が起こった箇所 ●避難所や避難場所 ●コンビニや防災倉庫など、災害時に役立つ場所
14:10~14:25	グループごとに自身の地域が災害に対して持つ強み・弱みについて意見を出し合い、模造紙にまとめる。
14:25~14:40	グループごとに避難を呼びかけるタイミング、方法について意見を出し合い、模造紙にまとめる。
14:40~14:55	各グループで模造紙にまとめた内容を発表する。
14:55~15:00	広島県自主防災アドバイザーによる講評



発表内容

- 過去に土砂災害で道路が寸断されたことがある地域は、孤立する恐れがあるため、早めに避難する必要がある。
- 地域のほとんどが土砂災害警戒区域であり高齢者も多いため、警戒レベル3で呼びかけを開始する。

呼びかけ体制づくりワークショップ

3.呼びかけ体制づくりの基本項目

呼びかけ体制づくりには、自主防災組織内で「ルール」を定めておくことが重要です。下表に示す「呼びかけ体制づくりの基本項目」を参考に、自主防災組織の中で決まっていること、決まっていなことを整理してみましょう。

◆表 呼びかけ体制づくりの基本項目◆

No.	項目	考え方
1	世帯数・人口	自分たちが活動している地域について、世帯数、避難先、起こりうる災害リスクを確認します。
2	避難先	
3	災害想定区域	
4	避難情報の入手方法	安全かつ迅速に避難するためには、タイムリーな情報入手が必要です。テレビや防災行政無線だけでなく、メールや防災アプリなども活用し、情報入手手段の多様化を図ります。
5	呼びかけの順番（連絡体制）	短時間で地域全員に避難を呼びかけるためには効率的な連絡単位、順番を考える必要があります。役員や地域住民の連絡名簿を作成することで呼びかけが円滑になります。
6	呼びかけ担当者在不在時の対応	呼びかけ担当者が不在時の場合に、誰がどのように対応するかなどを決めておきます。
7	呼びかけのタイミング	入手した避難情報を基に、いつ避難を呼びかけるかを検討し地域に周知します。
8	呼びかけの範囲・優先度	同じ地域内でも災害リスクに差があります。呼びかけのタイミングに合わせ誰から優先して呼びかけるかを決めておきます。
9	呼びかけ方法	避難の呼びかけにあたり、電話連絡、SNS、戸別訪問など、地域の実情に応じた方法を検討します。
10	呼びかけ内容（メッセージ）	呼びかけた言葉により避難を開始した例もあります。避難行動につながるメッセージを考えてみましょう。
11	呼びかけ・避難の確認方法	呼びかけが最後まで伝わったことが発信者に分かるよう、完了の確認方法を考えます。
12	避難経路	実際の避難時には通行できない道が生じる可能性があります。災害図上訓練やまちあるきで事前に避難経路を確認します。
13	避難所の開設	市町が開設する避難所は、指定施設が一斉に開設されるわけではありません。最寄りの避難所がいつ開設されるのかを確認します。
14	他団体との連携	避難の呼びかけや情報共有などで連携できるよう、地域で活動している他の団体と協力体制を築いておきましょう。
15	その他	他に各自防災組織で検討しておくべき内容を話し合います。

◆モデル組織による実施例

組織名称	【坂町】小屋浦地区自主防災組織（組織単位：小学校区）
実施時間	19:00～21:00（120分）
参加者	28名（自主防災組織の役員、民生委員、消防団が参加）
準備品	体制づくり検討シート／模造紙／付箋／筆記用具／土砂災害ハザードマップ

体制検討会

参加者を5グループに分け、以下の項目について説明を行った上で、呼びかけのタイミング、呼びかけ方法、呼びかけ範囲・優先度などを検討した。
① 防災情報の取得方法（広島県自主防災アドバイザーによる説明）
② 警戒レベルと避難所開設のタイミング（坂町による説明）

【実施スケジュール】

時 間	内 容
19:00～19:05	参加者を5つのグループ（町内会単位）に分ける。
19:05～19:30	●広島県自主防災アドバイザーから、防災情報の取得方法について説明 ●坂町から、警戒レベルと避難所開設のタイミングについて説明
19:30～20:30	グループごとにリーダーを決め、以下の項目について検討し、意見を模造紙に記入 【項目：呼びかけのタイミング／呼びかけ方法／呼びかけ範囲・優先度】
20:30～20:55	各グループによる発表
20:55～21:00	広島県自主防災アドバイザーによる講評



町内会に持ち帰り、更に体制を検討（約1ヶ月）

体制発表会

町内会ごとに避難の呼びかけ体制を発表し、各町内会の情報交換を行い、地域全体で呼びかけ体制づくりを進めた。

最後に...

広島県危機管理監では、災害の恐れがある場合、気象庁や県土木建築局、市町などと連携しながら、土砂災害や洪水の危険性などを把握しています。

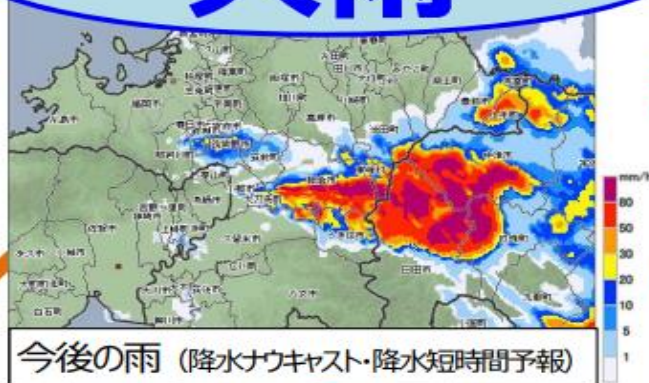


雨量分布の予報から災害危険度分布の予報へ

大雨

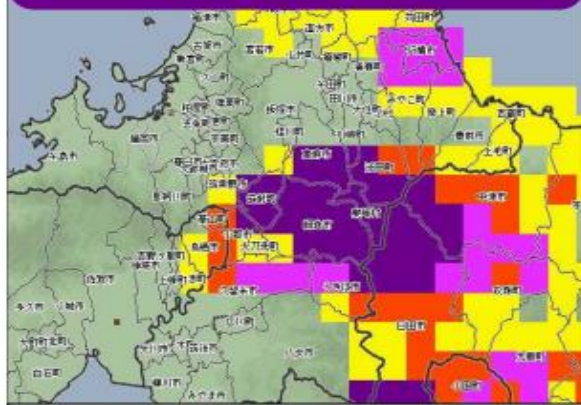
大雨の降っている場所は
気象レーダーで把握

(しかし、災害の発生する
場所・時間とは、
必ずしも一致しない。)



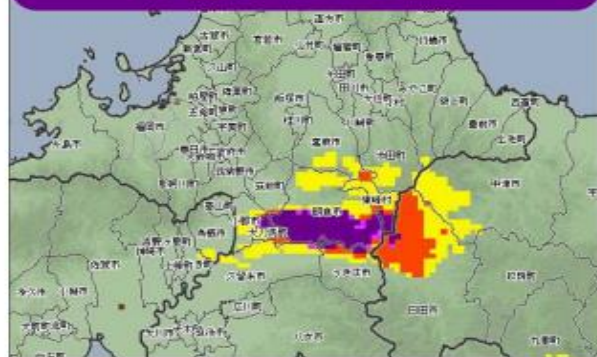
気象庁では、
警報等と合わせて、どこで
危険度が高まっているか
視覚的に確認できるよう
危険度分布も提供。

土砂災害



土砂災害警戒判定メッシュ情報
(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)

浸水害



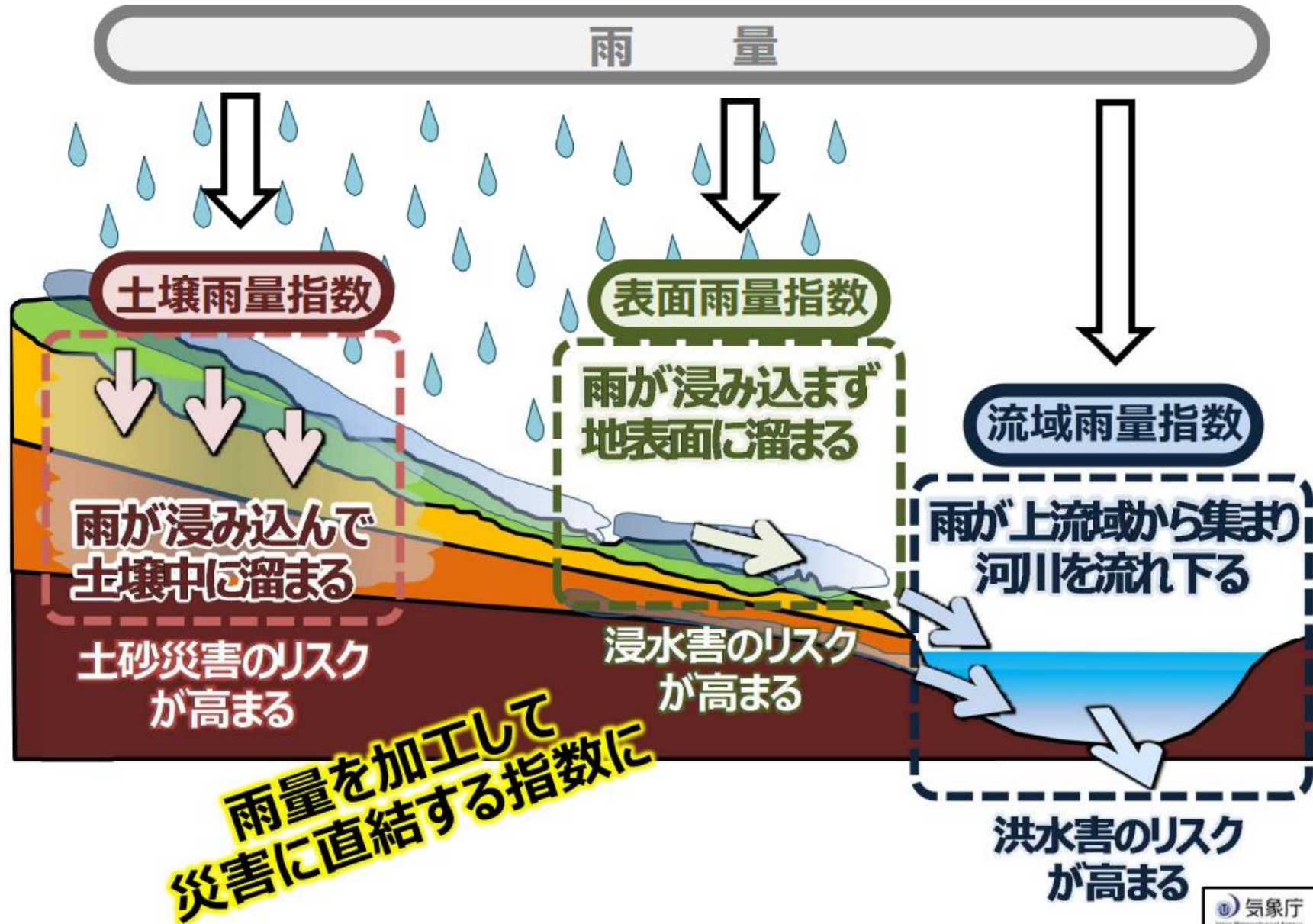
大雨警報(浸水害)の危険度分布

洪水災害



洪水警報の危険度分布

雨量分布の予報から災害危険度分布の予報へ

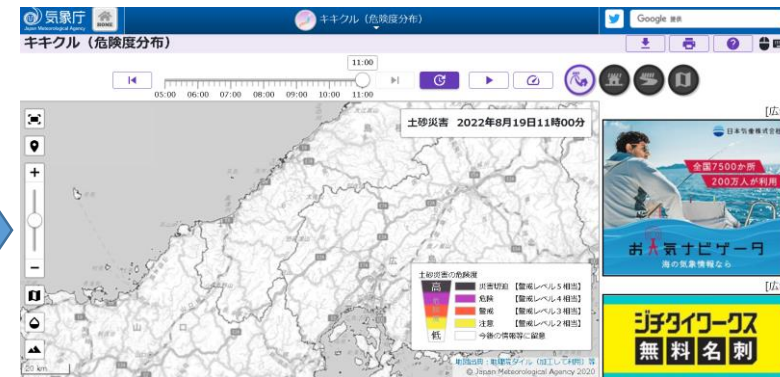


警戒レベル	住民が とるべき行動	住民に行動を 促す情報	住民が自ら行動をとる際の 判断に参考となる情報 (警戒レベル相当情報)	
			防災気象情報	
			洪水に関する情報	土砂災害に関する情報
5	命の危険 直ちに 安全確保！	緊急安全確保	・氾濫発生情報 ・大雨特別警報（浸水害） ・洪水警報の危険度分布（災害切迫）	・大雨特別警報（土砂災害） ・土砂災害の危険度分布（災害切迫）
4	危険な場所から 全員避難	避難指示	・氾濫危険情報 ・洪水警報の危険度分布（危険）	・土砂災害警戒情報 ・土砂災害の危険度分布（危険）
3	危険な場所から 高齢者等は 避難	高齢者等避難	・氾濫警戒情報 ・洪水警報 ・洪水警報の危険度分布（警戒）	・大雨警報（土砂災害） ・土砂災害の危険度分布（警戒）
2	避難に備え自らの 避難行動を 確認	洪水注意報 大雨注意報等	・氾濫注意情報 ・洪水警報の危険度分布（注意）	・土砂災害の危険度分布（注意）
1	災害への心構え を高める	早期注意情報		

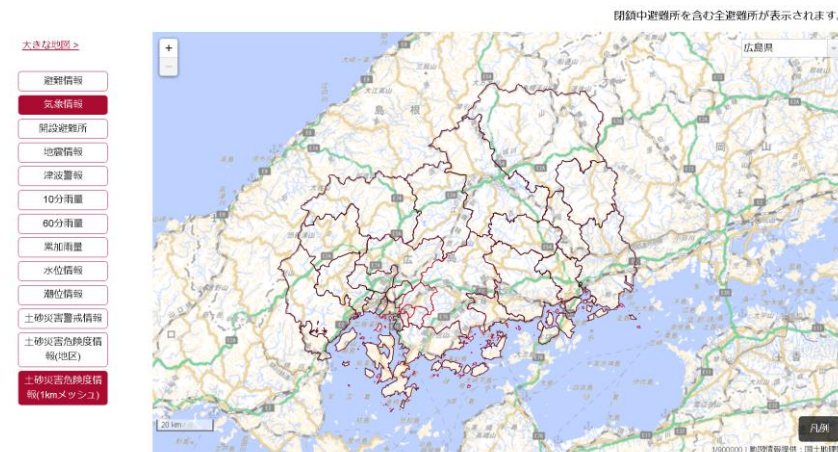
※市町村が発令する避難指示等は、市町村が総合的に判断して発令するものであることから、警戒レベル相当情報が出されたとしても発令されないことがある。

市民の皆様もさまざまなサイトで、
自分で確認することが可能です。

① 気象庁「キキクル」



② 広島県防災ウェブ



本日は、ありがとうございました。